

新聞と私

—新聞を毎日読んで、自分で考える力と、
批判的思考(クリティカル・シンキング)能力を身に着けよう—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：林さんが新聞を読み始めたきっかけは何ですか。

A：私が小学校4年生の時に、クラス担任の先生が「新聞を毎日読みましょう」とおっしゃったのがきっかけです。その日から、家の新聞を毎日読むようになりました。

Q：中学生や高校生、大学生になって新聞を読み、考えたことはありますか。

A：東京オリンピックなどの楽しいことと同時に、ベトナム戦争などもあり、社会は不条理なことが多いと実感しました。

中学2年生の時に、将来は弁護士か外交官になりたいという希望をもったのも、ずっと新聞を読んでいたのでした。

大学にいる間、1日1回は大学図書館に行き、いくつかの新聞を1時間以上読んでいました。高校時代から Japan Times から出ていた Student Times は読んでいましたが、本格的に英語の新聞を読み出したのも大学時代です。

Q：英語の新聞も高校生から読んでいたのですか。

A：はい。中学2年生から NHK ラジオの「ラジオ英語会話」を聴き、高校生の時は NHK 教育テレビの「英会話中級」を視聴していましたので、英語の新聞が読みたくて仕方ありませんでした。高校の図書館にあった Daily Yomiuri と Japan Times は難しくてよくわからなかったので、家で Student Times をとってもらい、なめるように読んでいました。

このおかげで、大学入試の英語と国語はスラスラと解答できました。読解力も相当ついたようです。

Q：林さんは、学習塾を経営なさり、NIE活動にも力を入れているそうですね。

A：(1) 大学を卒業後、学習塾や予備校講師、家庭教師をしながら、大学の研究室で法律を勉強していたのですが、29歳の時に栃木県足利市で開倫塾という学習塾を創業しました。

(2) 私は創業以来一貫して、自分で教える方々には、新聞を毎日一面から読み、世の中で何が起きているのかを知り、自分の力でものごとを考えるようお願いし続けています。

(3) NIE(新聞を教育へ)活動が学校で盛んに行われていることを知りましたので、開倫塾でも学習塾なりの NIE を行い、学校での NIE 活動を補おうと考えています。

(4) 具体的には、1年に何回か「スクラップブックコンテスト」を実施し、表彰をしています。

開倫塾は北関東3県に60校舎を展開していますので、校舎対抗の「スクラップブックコンテ

スト」も実施し、先生方もよい意味でNIE指導のスキルを競い合っています。

(5)毎年、10月の新聞週間や11月のNIE月間を中心に、地元で活躍なさっている各社の新聞記者や新聞販売店の皆様を講師としてお招きし、「新聞ができるまで」「新聞が配達されるまで」などというテーマでお話して頂き、大好評です。新聞に対する塾生の興味・関心を高めるのに役立っています。

Q：新聞は、学校成績の向上や受験にも役立つのですか。

A：(1)新聞は「学ぶ意義」や「世の中の課題」を考え、自覚をもって学ぶきっかけをつかむのに極めて大きな役割を果たします。

(2)また、読解力を身に着けるのにも有用です。試験では短時間で論理的な文章を分析的に読み込むことが求められるからです。

(3)実際に、どの入試でも各教科の問題文はどんどん長くなっていますが、新聞を毎日読む習慣を身に着けている受験生は、問題文や設問を最後まで正確に読み切り、正解を導くことができます。

(4)「スクラップブック」を作り続けると、記述式の出題や論文試験、面接試験にも対応できます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：2017年になり、トランプアメリカ大統領の政策や世界各国の政治の動きが、日本はじめ世界の人々の生活や将来に大きく影響しつつあります。こんな時こそ、新聞をしっかりと読み、ものごとを自分で考える力、批判的思考(クリティカル・シンキング)能力を身に着けなければと考えます。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)